

2020年4月5日(日)朝10:10～ 棕櫚の日・受難節第6、役員会等
4月第1聖餐総員共同主日礼拝式説教 日本アライアンス庄原基督教会

説教題：**柔和な主がロバの子に乗られる**

(7;ゼカリヤ9:9)

聖書:マルコ 11章1～11節

＜口語訳＞

新約聖書70頁

マルコ 11章1～11節

＜新共同訳＞

新約聖書83～84頁

マルコ 11章1～11節

＜新改訳第3版＞

新約聖書88～89頁

マルコ 11章1～11節＜塚本訳＞

新約聖書43～44頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

◇**マルコ書**は、**マルコ**が、**ユダヤ人**の以外の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。

◇**マルコ11章節**は、**神の御子イエス・キリスト様**が、ご自身を密かに**救い主(メシヤ)**として示された箇所です。

◇本日の**マルコ11章1～11節**は、**神の御子イエス・キリスト様**が、**ゼカリヤ書9:9**で預言されていた**救い主(メシヤ)**を示すしるしで、敵対する**ユダヤ人の救い主(メシヤ)**像とは異なるものでした。

⇒**マルコ**は、**神の御子イエス・キリスト様**を罪人の救いのために仕える、しもべとして描いています。

⇒多くの人々が、当時華やかだったエルサレムを目指していたのに**御子イエス・キリスト様**は、「**ベテハゲとベタニヤ**」で、「**救い主(メシヤ)**」を当時王が乗られて**驢馬**に乗られました。

⇒**当時の指導者**は、驢馬に乗る姿から正しい、柔和なお方を排斥したのです。

本論；

◇本日、マルコ11章1～11節から主の使信に
思い・心をとめます。

◆マルコ11章1～11節；マルコは、神の御子
イエス・キリスト様を神のしもべとして語って
います。

◇1～11節；塚本訳◆都入り

「1 一同がエルサレムの近く、(すなわち)オリ
ブ山の中腹にあるベテパゲとベタニヤとに
来ると、イエスはこう言って弟子を二人使に
やられる、

2 「あの向いの村まで行ってきなさい。村に入
るとすぐ、まだだれも乗らない一匹の子驢
馬が見つないであるのが見える。それを解い
て、引いてきてもらいたい。

3 もし『何をするのか』と言う者があったら、『主
がお入用です。すぐここにお返しになりま
す』と言えばよろしい。」

4 二人が行って見ると、はたして(ある家の)外
の通りに向いた戸に、子驢馬が見つないであ
ったので、それを解いた。

5 するとそこに立っていた人たちが「子驢馬を

- 解いて、何をするのか」と言ったので、
- 6 イエスに言われたとおりにこたえたと、許してくれた。
 - 7 二人が子驢馬をイエスの所に引いてきて、自分たちの着物をその上かけると、イエスはそれに乗られた。
 - 8 大勢の者は着物を道に敷いた。野原から小枝を切ってきて敷いた者もあった。
 - 9 (イエスの)前に行く者もあとについて行く者も、叫んだ。——『ホサナ！、主の御名にて来られる方に祝福あれ。』
 - 10 来たるわれらの父ダビデの国に祝福あれ。いと高き所に『ホサナ！』
 - 11 やがてエルサレムについて宮に入られた。隅なく見てまわれたのち、時間もはやおそくなったので、十二人を連れてベタニヤに出てゆかれた。」と、**マルコ**は語っています。
- ◇**1～6節**；「一同がエルサレムの近く、(すなわち)オリブ山の中腹にあるベテパゲとベタニヤとに来ると、イエスはこう言って弟子を二人使にやられる(1)」、「あの向いの村まで行って

きなさい。村に入るとすぐ、まだだれも乗らない一匹の子驢馬がつないであるのが見える。それを解いて、引いてきてもらいたい(2)」、「もし『何をするのか』と言う者があつたら、『主がお入用です。すぐここにお返しになります』と言えばよろしい(3)。「二人が行って見ると、はたして(ある家の)外の通りに向いた戸に、子驢馬がつないであったので、それを解いた(4)」、「するとそこに立っていた人たちが「子驢馬を解いて、何をするのか」と言ったので(5)」、「イエスに言われたとおりにこたえと、許してくれた(6)」と、「『何をするのか』と言う者があつたら、『**主がお入用です**。すぐここにお返しになります』と言えばよろしい」が鍵句です。

⇒マルコは、**イエス・キリスト様**が「**主がお入り用なのです**」と言われてことに注目しています。

⇒「**主のご用に用いられる人**」は、今も現実で、正しさと柔和は、「**主のしもべ**」に不可欠です。

◇**7～11節**；「二人が子驢馬をイエスの所に引いてきて、自分たちの着物をその上にかけて、イエスはそれに乗られた(7)」、「大勢

の者は着物を道に敷いた。野原から小枝を切ってきて(て敷い)た者もあった(8)」、「(イエスの)前に行く者もあとについて行く者も、叫んだ。——『ホサナ！、主の御名にて来られる方に祝福あれ。』(9)」、「来たるわれらの父ダビデの国に祝福あれ。いと高き所に『ホサナ！』(10)」、「やがてエルサレムにつ形いって宮に入られた。隅なく見てまわられたのち、時間もはやおそくなったので、十二人を連れてベタニヤに出てゆかれた(11)」と、「**神の御子イエス・キリスト様**」は、「来るべき方」として、十字架の死を覚悟で、「敵対者が待ち受けるエルサレム」へと入城されたのです。

⇒「**神の御子イエス・キリスト様**」は、人々が**救い主(メシヤ)**を歓待するのを敢えて受けて下さったのです。

⇒「ホサナ」は、「どうぞ、来て下さい」という意味ですが、本来、紀元前163年、ユダ・マカベアウスが、アンティコスに勝利し、排斥した時、勝利者を記念したものです。

⇒「**神の御子イエス・キリスト様**」は、ローマと武力で解放するためでなく、罪からの解放者として、真の王として、群衆の詩篇118篇の勝利の詩を受けて下さったのです。

⇒「**神の御子イエス・キリスト様**」、①愛の訴えをなされた、②ベタニヤに退き、父に祈り、来るべき日に備え、③弟子たちと地上最後の日を過ごし、福音を語り尽くして下さったのです。

⇒「**神の国とその義**を求めなさい」の命令の確認と福音の委託です(**マタイ6:33**)。

⇒「わたしは、決して、あなたを見放さず、あなたを捨てない」(**ヘブル13:5**)主なので、いつまでもともにいて下さいます。

結論；

- ◇**神**は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇**マルコ書**は、**マルコ**が、**ユダヤ人**の以外の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇**マルコ11章節**は、**神の御子イエス・キリスト様**が、ご自身を密かに**救い主(メシヤ)**として示された箇所です。
- ◇本日の**マルコ11章1～11節**は、**神の御子イエス・キリスト様**が、ゼカリヤ書9:9で預言されていた**救い主(メシヤ)**を示すしるしで、敵対する**ユダヤ人の救い主(メシヤ)**像とは異なるものでした。
- ⇒**マルコ**は、**神の御子イエス・キリスト様**を罪人の救いのために仕える、しもべとして描いています。
- ⇒多くの人々が、当時華やかだったエルサレムを目指していたのに**御子イエス・キリスト様**は、「**ベテハゲとベタニヤ**」で、「**救い主(メシヤ)**」を当時王が**驢馬**に乗られました。
- ⇒**当時の指導者**は、驢馬に乗る姿から正しい、柔和なお方を排斥したのです。

- ⇒ **神の御子イエス・キリスト様**は、**救い主** (メシヤ)として、「**神の国とその義**」の**神の僕**が、「『主がお入用です』」。
- ⇒「やがてエルサレムについて宮に入られた。隅なく見てまわられたのち、時間もはやおそくなかったので、十二人を連れてベタニヤに出てゆかれた」と、①ベタニヤの祈り、②主との交わり、③託された福音に生きることが求められています。
- ⇒【新改訳2017】ヤコブ 3:13 あなたがたのうちで、知恵があり、分別のある人はだれでしょうか。その人はその知恵にふさわしい**柔和**な行いを、立派な生き方によって示しなさい。